# 学生・研究者が調査報告

綾町と包括的連携協定を結ぶ宮崎大学・南九州大学による調査研究の成果報告がありました。

令和元年度は、新たに設けられた学生によるチャレンジプログラムとして、宮崎大学農学部の山本明日香さん、松田征馬さんらが「見る!学ぶ!守る!宮崎の動物たち」をテーマに調査を行いました。この調査では、綾町の照葉樹林内8カ所にセンサーカメラ、2カ所に監視カメラ付き巣箱を設置。どのような動物が生息しているかを確認し、エコパークセンターのタブレット端末で映像を公開しました。

撮影された動物はシカやイノシシ、タヌキ、アナグマ、ムササビ、ノウサギ、テン、イタチ、ネズミ、アライグマのほ乳類10種類と、コシジロヤマドリ、ルリビタキ、アオゲラ、ミソサザイ、キジバト、シロハラ、ムシクイ類、アオバト、フクロウの鳥類9種にのぼり、身近な自然にさまざまな動物が生息していることが分かりました。

そのほか、継続的に実施されている日向夏畑へのニホンミツバチの訪花数を調査し、農産物のブランド化につなげる研究など5つの研究についても報告書が提出されました。

巣箱を設置する宮崎大学の学生

センサーカメラに写ったコシジロヤマドリ

## 研究者と研究テーマ

- 宮崎大学農学部・光田靖教授「綾ユネスコエコパークの農産物ブランド化に向けた生態学的研究」
- 同地域資源創成学部・戸敷浩介准教授「綾町錦原台地周辺の水環境における硝酸態窒素濃度の分布と季節変動に関する研究」
- 同地域資源創成学部・西和盛准教授「綾町の自然生態系農業における窒素循環に関する研究」
- 南九州大学環境園芸学部・前田隆昭教授「液肥の施用がヒュウガナツの着色に及ぼす影響」
- 同環境園芸学部・山口健一教授「ブドウ栽培における持続可能な循環型栽培モデル」

■問い合わせ先／ユネスコエコパーク推進室 ☎77-3482

## column ベニシジミ

春を感じる季節に真っ先に飛びはじめるチョウの一種。天気のよい日に堤防やあぜ道を歩くと、春の暖かい日差しを浴びて赤く美しい羽を広げて日光浴している姿をあちこちで見ることができます。

「たで食う虫も好きずき」とはよく言ったもので、本種は幼虫のころにはスイバなどタデ科の酸っぱい植物の葉ばかりを食べて育ちます。成虫になると、苦いタデの葉から卒業するように花の蜜を吸うようになります。自然界の酸いも甘いも経験しながら成長する「春の妖精」を、探しに出かけてみませんか?